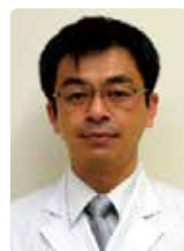


脊椎に発生する腫瘍

整形外科部長兼 診療放射線科部長

向山 啓二郎



今月は脊椎に発生する腫瘍の話です。

脊椎に発生する腫瘍のタイプには2種類があり、ほかの臓器から転移してくる転移性脊椎腫瘍と脊椎の骨や神経から発生する原発性脊椎腫瘍があります。この2種類のうち、圧倒的に頻度が高いのは転移性の腫瘍です。

悪性腫瘍は骨、特に脊椎の骨への転移をすることがあります。したがってそれらの腫瘍の出どころは脊椎ではなく、ほかの内蔵から発生する癌です。脊椎に転移しやすい癌として知られているのは肺、乳腺、前立腺、甲状腺、腎臓などですが、その他の癌でも脊椎に転移することもあります。脊椎に転移して腰痛や背部痛が出て初めて腫瘍の存在が分かることも稀ではありません。転移しやすい脊椎は腰椎、胸椎、頸椎、仙椎の順番です。

腰痛、下肢痛、背中や首の痛みとして出ることも多く、通常の腰痛と思つて我慢しているうちに進行してしまうこともあります。腫瘍による腰痛としてはほかの疾患との違いは、「じつとしていても痛い」「夜中寝ていても痛くて夜起きてしまう」などの症状が出る場合があります。また、数日のうちにどんどん痛みがひどくなってくることもあります。

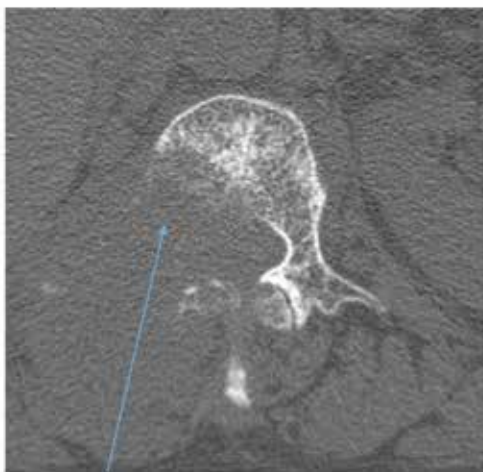
もし、脊椎に癌の転移が見つかってしまったら、その時の癌の状態や全身状態を見て、整形外科的な治療方針を決めます。体の状態が許せば痛みを止めたり、麻痺が出現している場合には回復を狙って手術をすることもありますが、病气そのものを治す治療ではないため、その後の癌に対する治療が重要となってきます。

脊椎そのものから発生する腫瘍は比較的稀です。ほとんどが良性腫瘍ですが、やはり大きくなると痛みが生じたり、神経を圧迫して痛みや手足の機能障害を起こしてくることもあります。神経から発生する腫瘍では、これを取り除く手術をすることによりかえって神経の麻痺を招く可能性もあり、良性のものがほとんどであることから、慌てて手術をせず、神経症状を確かめながら経過を見ることもあります。

これまで腰痛や肩こりなどの原因となる脊椎の病気を紹介してきました。腰痛、肩こりはとも多くの方が悩んでいる症状で、持病とあきらめている方も多いのではと思います。

しかし似たような症状であってもその原因は様々で、極端に言えば人によってその原因は違います。中には早期発見が大切なものもありま

すし、治療を行うことですぐに治るものもあります。もしお悩みの方がいたら整形外科に一度ご相談ください。



腫瘍によって骨が壊されている



癌の脊椎転移